

若城新聞

明日の女性文藝運動(二)

福田 將夫

そこで現代の如く階級制が白熱化して「藝術は至上なり」といふ文藝運動がなされ、文藝も文藝の運動として新しい轉機が火華を散らすやうな開端が始められた。今日となつては、在來の文藝作家が創作した作品と云ふものは單に有階級級へ玩弄を供してゐるに過ぎなかつたものとなつて了ひ、崩壊せんとしてゐるブルジョア文化をばらばらに止める一環位にはなれぬ。昨今の婦人雜誌を御覽あれ、積極的に社會進歩の動向に働きかける力などあつて得る筈もありません。

所謂文藝作家達は塵埃濁り文字街に立つて自分の進むべき途を知らず茫然としてゐるばかりです。では、所謂文藝作家が姿を消した後の女性文藝と云ふのは、今のまゝ全滅してしまふのでせうか、また男性文藝家として對岸の火災視してゐて良し、ものでせうか。彼女達の起伏はあまり重大視されてゐません。ぼつと女流新作家が牛の首を冷視する。

僕は今まで従つて文藝作家が没落し、苦く没落の憂き目に溺つてゐる原因を一瞥しました。處で今日の生活は表面は、文藝作家の生活にまさつては、男性資本主義文化の隷屬下に繋がれてゐる。今「モダン・ガール」と云ふ思はれた女性、横行瀟々としてゐるのには、女性ブルジョア男性社會の變態性慾を満足させる爲めの肉體的流行を観る外、社會的に深い意味はないやうです。

それに比べると「青踏運動」が勃興した頃、「新」が「新」の一原を女性に太鼓をたたき、それが「青踏運動」は求め得られた。

多つた意味時代の男性の方がより多く腕力を揮ふ機会が多かつた。云ふ生理上の原因が推察して何時の間にか女性に男性社會から離れられ、扱ひにせられたのだらう。

絶望とあくまで眞運を遂げる。ふて已まない熱情と燃ゆる。旺らし、その反動として時々の奇想天外な行爲をもつたもの。多つた意味時代の男性の方がより多く腕力を揮ふ機会が多かつた。云ふ生理上の原因が推察して何時の間にか女性に男性社會から離れられ、扱ひにせられたのだらう。

多つた意味時代の男性の方がより多く腕力を揮ふ機会が多かつた。云ふ生理上の原因が推察して何時の間にか女性に男性社會から離れられ、扱ひにせられたのだらう。

阿呆の顔 (草野村) 富岡武夫

阿呆の顔 (草野村) 富岡武夫

阿呆の顔 (草野村) 富岡武夫

阿呆の顔 (草野村) 富岡武夫

阿呆の顔 (草野村) 富岡武夫

阿呆の顔 (草野村) 富岡武夫

死を起す者 (124) 三上於菟吉作

死を起す者 (124) 三上於菟吉作

死を起す者 (124) 三上於菟吉作

死を起す者 (124) 三上於菟吉作

死を起す者 (124) 三上於菟吉作

死を起す者 (124) 三上於菟吉作

死を起す者 (124) 三上於菟吉作



支店 披露

支店 披露

支店 披露

支店 披露

支店 披露

支店 披露

支店 披露

元禄 染色力... 確実 使用法... 頗る簡便 価格... 低廉 定價... 小瓶二五 中瓶三五 大瓶五〇

外科一般 (入院隨意) 内臓外科専門 花柳病科 平町六丁目(橋際) 木村外科醫院 電話三〇九

安齋外科醫院 電話四三六番

渡邊内科醫院 電話一六一番

赤心堂病院 平町田町電四七五

鈴木醫院

植田町本町 前田醫院 入院隨時... 電一二四番

内科診療 消化器病科 呼吸器病科 小兒内科 一般内科 入院應需(自炊ノ便アリ) 渡邊内科醫院 電話一六一番

外科一般外科 婦人科 泌尿科 光線科 木下寅一 院長 新妻由五郎 赤心堂病院 平町田町電四七五

診療開始 耳鼻咽喉科専門 日本醫大醫學士院長 鈴木正男 齒科口腔外科 日本齒科醫學士科長 高橋正永 ◎晝夜診療 下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東安齋前六間通り 鈴木醫院

植田町本町 前田醫院 入院隨時... 電一二四番

不老長生 蜂ブドウ酒 美味滋養

